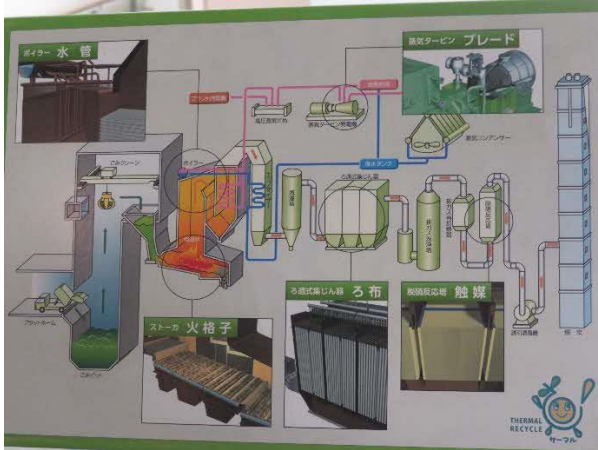


令和5年度 第1回廃棄物減量等推進員 環境施設見学会の結果報告（参加8名）

於資源循環エネルギーセンター・破碎選別工場・資源リサイクルセンター

■「環境世界都市すいた・エコクリーンすいた」の映像紹介後（13分）に各施設を見学



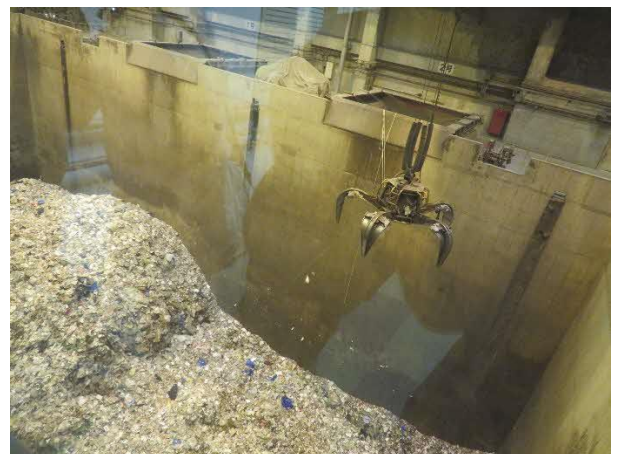
資源エネルギーセンターの処理の流れ



プラットホーム（回収車で市内のごみを回収）



蒸気タービン発電機室（現在の発電量を表示）



ゴミピット（プラットホームからゴミを集積）



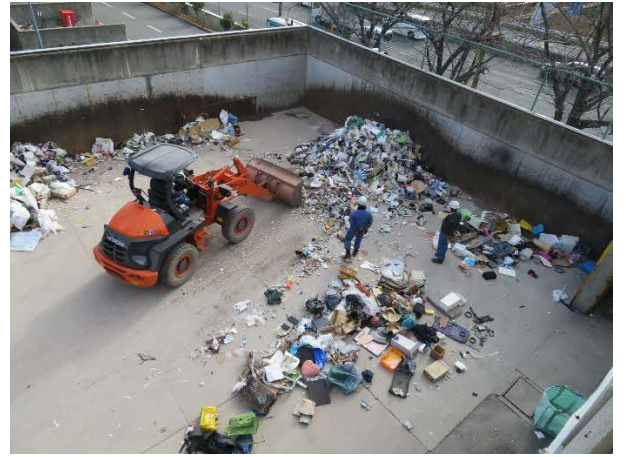
中央制御室



PET to PET の圧縮品



アルミ缶の集積場



回収した廃棄物の選別



燃えない鉄屑など



大型・小型処理<運転画面>



起動・停止処理



コンボでマットレスを破壊



金属破砕機



アルミ缶の選別



アルミ缶から作られたインゴット



色の種類が多い空き瓶



選別されたガラスカレット



リサイクルプラザ・布工房を見学



紙漉きを見学



環境出前講座などを実施中



自転車工房を見学



リユース食器はマイ食器持参を検討中



木工工房を見学



くるくるショッピングエリアを見学



「吹田のゴミの歴史」(主なもの)

昭和 14 年以前：大正時代の吹田町ではゴミは各家庭で埋めたり焼いたりしていた。時代が進むにつれ捨てられたゴミが道路や宅地に溜まり、町全体の不潔さや不衛生が目立つようになり、大正 14 年に吹田町衛生組合が作られ肩引き車でゴミが収集されて神崎川河原で燃やされていました。昭和 10 年に吹田で最初の焼却場が川岸町に建てられ、昭和 13 年に町役場が有料でゴミ収集を始めました

昭和 34 年：蠅や蚊が発生しないよう水を含まないコンクリート製ゴミ箱が使われるようになりました

昭和 42 年：ゴミをそのまま埋め立てていたため蠅や蚊などの問題で埋立地周辺の住民から苦情が多くなり大きな問題になりました。

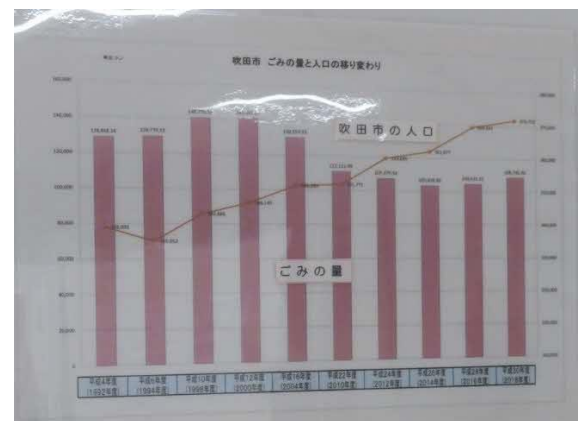
昭和 49 年：粗大ゴミ処理するため粗大ゴミ破碎工場が此の地に建てられました。燃えるゴミ・燃えないゴミ・粗大ごみの三種類に分けて集められるようになりました。

昭和 56 年：北工場（第 2 工場）が作られ市内のゴミ処理は全て第 2 工場で行われるようになりました

平成 4 年：吹田市全域でゴミの集め方が五種分別になりました。

平成 9 年：PET ボトルの拠点回収が始まりました。

平成 12 年：2000 年を境に増え続けたゴミの量が皆の努力で減っていききました。



以上